

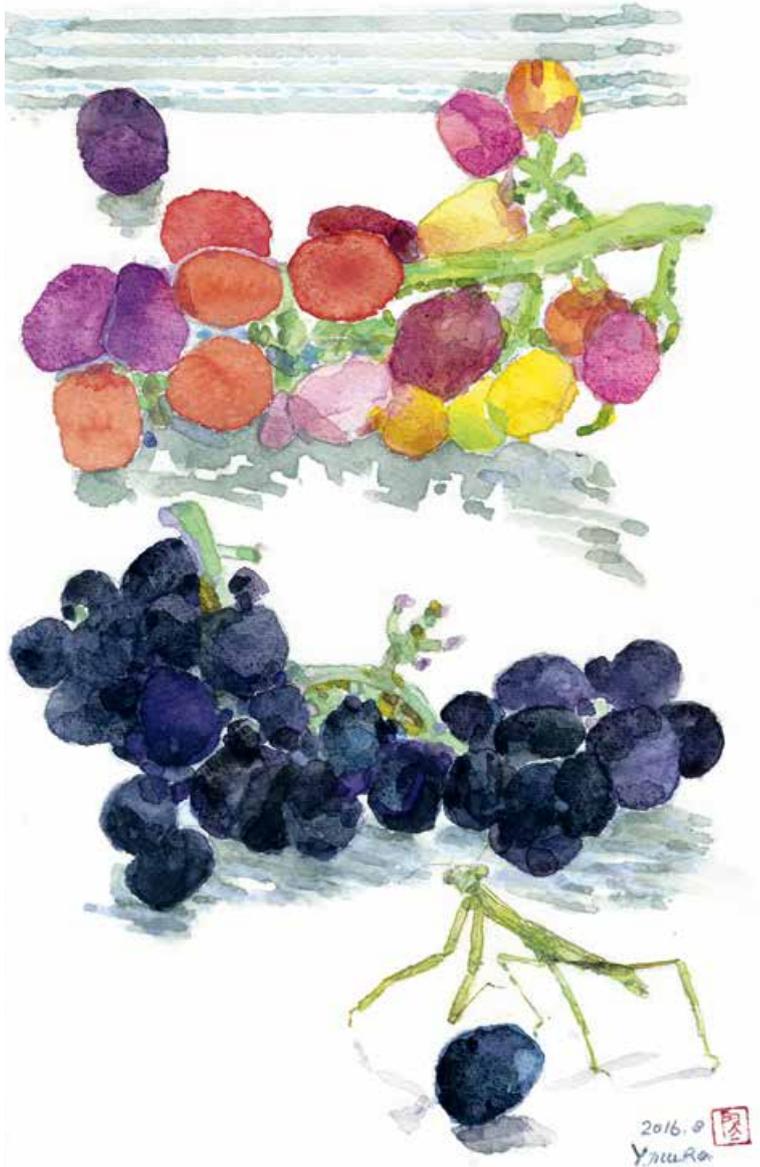
福祉にいがた

Fukushi Niigata

9月号

2016

第769号



村山 陽「ぶどうの季節」
(一水会委員・上越市在住)

巻頭特集

CONTENTS

みんなの居場所
(2～4面)

- 湯沢町で関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会
- 新潟市で関東社会就労センター協議会研究会
- 連載「社福法人の公益活動」その5

地域の中のみんなの居場所

さまざまな思いを込めた、幼児から高齢者までさまざまな世代が集う地域の「場」があります。そんな居場所である新潟市東区の「実家の茶の間・紫竹」と関川村の「夜の茶の間」、新潟市西区の「ドリームハウス」、そして東区の「ふじみ子ども食堂」を紹介します。



県高齢者大学の受講生が訪れ、さらににぎやかになった茶の間の様子。

新潟市地域包括ケア推進モデルハウス 実家の茶の間・紫竹

- 〒950-0864 新潟市東区紫竹4-21-62
- ☎025(287)2819
- ・開館時間 毎週月・水曜日
10:00～16:00
- ・参加費 300円(子ども無料)、
食事300円(子ども無料)
- ・開設 2014年10月
- ・コーヒーやお茶、お菓子の用意あり

距離感学びながらお互いさまの助け合い

新潟市との協働で開設の

「実家の茶の間・紫竹」は間もなく2年。誰でもが気軽に集える居場所です。毎回40人近い高齢者を中心とした利用者でにぎわいます。

保育園児の来訪もあります。決まったプログラムはありません。同じテーブルの人とおしゃべりしたり、小学生たちと新潟の方言かるたを楽しんだり、お母さんと来た幼児をみんなであやしたり、このまま溶け込んでしまいたいと思わせる、ゆったりとした時間が流れています。「最初はみんな仲良くやれるか心配でした。今はここが一番良い。」

すに腰かけた女性。「気軽にしゃべれるし、元気になるのが良いね」「俺の実家だよ」と2人の男性が話します。

このためにルールがあります。「あの人誰」という目つきをしない」「プライバシーを聞き出さない」「その場にいない人の話はしない」などの張り紙が居間の下がっています。初めて来た人が孤独感を味わうことがないように、また集う人が居心地の良い場と感ぜられるようにという、代表の河田珪子さんの温かい気配りによるものです。

河田さんは「人と人の出会う場をつくるのが大事です」と言います。適度の距離感学びながら、お互いさまと助け合いのある地域づくりの広がり期待を寄せます。ここでは「サービスの利用者はいない。『場』



実家の茶の間・紫竹。玄関は常に開かれ、利用者を待っている

の利用者だけです」。大工仕事など得意技を生かすことも歓迎されます。

玄関で記帳し、参加費を箱に入れ、おつりも自分で取り、席も決まっています。希望制の当番はありますが、配せんなどできる人が自発的に行います。食器は最後の1人がはしを置くまで片付けないがうれしい鉄則です。

最近では、お母さん同士が買い物などに行く間、幼稚園や小学校低学年の子どもを預けることがあります。残された子どもたちはというと、大人に交じり、ぶかぶかのマスクで食事運びの手伝いをするそうです。そ

れを聞いたお母さんたちは、成長ぶりに驚いたり喜んでいたりしているそうです。河田さんが創設した「地域の茶の間」は現在、県内約2000カ所で様々な形で開設されています。

関川村で「夜の茶の間」地域の課題で盛り上がる

「夜の茶の間in関川」が5月26日夜、関川村民会館で40人ほどが参加して開催されました。「茶の間」活動を行っている河田桂子さんが、新潟市で行っている異業種交流「夜の茶の間」に、関川村役場と同村社協



職員が参加し感銘を受けたことが契機で、関川村でも行われることになったものです。今回は河田さんも参加しました。参加費は500円で、飲み物や食べ物を持ち寄りで

お母さんの心を元気にしたい

実施。顔見知りでも必ず自己紹介と当日の話題について全員が一言話すことがルール。今回は「今、頑張っていること」でした。地域の課題などにも話が及び、村唯一のスーパーで

ある「はなだてや」が閉店となることから、その代替として何かみんなで頑張れないかという提案がありました。参加者同士がいろいろな話題で盛り上がっていました。

子育て応援施設ドリームハウス

- 〒950-2054 新潟市西区寺尾東3-9-30
- ☎025 (268) 2666
- ・開館時間 火～金曜日、第2・4土曜日、第3日曜日 10:00～14:00 祝日休館、季節休館あり
- ・協力費 500円(1日)
- ・時間内出入り自由。
- ・設立 1999年
- ・ドリンクバーやティータイムあり
- ・ドリームハウスプレスの季刊発行

「温かい人のぬくもりが感じられるところ、お互いさまの気持ちで助け合う場がドリームハウス。昔は地域に当たり前にあったのか



お母さんと子どもが遊ぶ居間

もしれない」と代表の新保まり子さん。まるで実家のような雰囲気の一軒家は、お母さんの心を元気にしたいという思いがぎゅーりと詰まっています。

子どもを幸せにする」と17年間続けてきました。秋葉区や東区から、また冬はタクシーでやってくるお母さんもいます。「心の中にドリームハウスが存在すると



ランチタイム

原点は、新保さん自身が2人の育児に悩み、つらさや孤独感を味わったことから。「お母さんがありのままの自分で過ごし、ホッと一息つける居場所を作りたい。お母さんの笑顔が

畳敷きの部屋には絵本やおもちゃがあり、庭ではプールや流しそうめん、パーベキューもできます。子どもはスタッフなどみんなで見守り、お母さんは一休みできる環境をつくっています。ここで元気ももたらした子育て中や一段落ついたお母さんがスタッフとつながり、手芸や料理など

地域で子どもを守り育てる

好きなことや得意技を持ち寄る日も設けられています。地域の高齢者や保育士を、目指す学生の応援、そしてお父さんの活躍も大きな力となっています。「地域

で子どもを育てる」ということを改めて思い起こさせます。

新保さんは「各地域に思いをつなぎ作りたいたいと思う人の助けがしていきたい

たい。自分が生きるためにも必要であり、みんなが必要としているという確信が年々強くなっています」と今後の広がりにも期待しています。

ます。

共働きや1人親家庭の増加など家庭環境が大きく変わる中、子どもが独りで食事をする「孤食」やスナック菓子だけで済ませるなど、子どもの食の問題が新潟でもあると言います。「ご飯を食べさせることならできるとは思えない」という思いでのスタートでした。

昨年10月に場所が決まり、12月のプレオープンに向けて動き出していました。新聞で取り上げられると、開催地域から心配と不安の声が上がりました。全国的に広がりを見せる「子ども食堂」が貧困問題と結びつけてクローズアップされたためです。急いで新潟市東区社会福祉協議会や自治会長らの協力を得ながら、地域への説明を重ねました。結果的に地域とチームになれたと感じています。

立松さんは「地域で子どもを見守り育てることにながていきたい。地域での寄り添い支援につながってほしい」と言います。子ども食堂が認知されて行くことで、自分の住んでいる地域にも支援の必要な子どもがいるかもしれないと、意識して目を向けることが期待されます。8月には、新潟市内で子ども食堂を運営している団体でネットワークをつくり、タイムリーな情報交換や重複した寄付物品などの譲り合いをしているということでした。

活動をきっかけに、学生有志で立ち上げた「そらいろ子ども食堂」との合同開催。毎回来ているという母親は「2人だけの食卓では、このにぎやかさはありません。スタッフがいつも『お帰りなさい』と出迎えてくれるんです。子どもも楽しみにしています」と白玉作りに奮闘する子どもを見つけていました。

学生たちは、10月から新潟市中央区で、地域のさまざまな世代が触れ合える居場所―「そらいろ子ども食堂」の開設を目指しています。

ふじみ子ども食堂

〒 950-0025 新潟市東区藤見町 1-18- 4
藤見団地集会所
☎ 090 (3754) 5072 代表・立松有美
・開館時間 毎月第2、4木曜日
(ブログなどで要確認)
17:00 ~ 19:30
・参加費 100円 (就学前の子ども無料)
・開設 2016年1月

新潟県内の先駆けとなった「ふじみ子ども食堂」。代表の立松有美さんら3人の女性が「にいがた子育てステイション」を立ち上げ、「ふじみ子ども食堂運営委員会」と運営に当たっている。



子どもと学生と一緒にフルーツポンチ用の白玉作り

祝日の8月11日昼、会場の藤見団地集会所は80人ほどの参加者で大にぎわいでした。この日は、ふじみ子ども食堂でのボランティア



大学生らは手際よく夏野菜のそぼろ煮などを調理

第66回新潟県民福祉大会

10月25、26日に湯沢町で開催

社会福祉法施行 65 周年並びに共同募金運動 70 周年を記念して「第 66 回新潟県民福祉大会」(県、県社会福祉協議会、県共同募金会、湯沢町、湯沢町社会福祉協議会主催)を開催します。大会初日には各テーマで研究集会、2 日目には、社会福祉功労者を表彰する式典とナグモクリニック総院長・医学博士である南雲吉則氏を講師に迎え、記念講演を行います。

【10月25日(火)】

研究集会 (時間:午後 1 時 00 分～4 時 00 分 会場:湯沢カルチャーセンター、NASPAニューオータニ)

◆第 1 研究集会

「地域を支える担い手づくりのあり方を考える」

◆第 2 研究集会

「地域における権利擁護体制構築に向けた取り組み」

【10月26日(水)】

式典・記念講演 (時間:午前 9 時 20 分～正午 会場:湯沢カルチャーセンター)

◆式典

社会福祉功労者に対し県知事表彰、県社会福祉協議会長表彰、県共同募金会長表彰を行います。

◆記念講演

ナグモクリニック総院長・医学博士の南雲吉則氏を迎え、「若返るのはどっち?～目からウロコのナグモ式若返り術～」の演題で講演を行います。

【問い合わせ先】

新潟県社会福祉協議会 総務管理課
(電話:025-281-5520 FAX:025-281-5528)

※開催要綱などは、新潟県社会福祉協議会ホームページにも掲載します。

(<http://www.fukushiniigata.or.jp/>)

夏の贈り物



まだまだ暑さは続きませんが、なんとなく「秋の訪れ」を感じさせる今日この頃。まだ夏が始まったばかりの頃は、「夏は暑いから苦手…」と言いな

がら、「夏っぽいことがしたい!」という矛盾した発想の下、旅行、海、花火、バーベキューなどなど、ついつい、さまざまな思惑を巡らせた。

これは個人的な見解ですが、夏は人とのつながりを強く意識し実感する季節です。近所の夏祭りでは、「えー、久しぶり!」なんて言いながらちよっと興奮気味に駆け寄って、近況報告に花を咲かせる女の子たちの姿を見ました。私自身も久しぶりに会う面々がち

らほら。懐かしさに頬が緩みます。

お盆には親戚が集まります。普段はなかなか会うことのない叔父や叔母、いとこ、そしてその家族…、特に小さな子どもの成長・変化ぶりは大人と違って目覚ましく、ついつい決まり文句のように「大きくなったねえ〜」という言葉が口をつきます。ささやかな幸せを感じる瞬間です。また、お盆といえば、帰省中の友人に会えるのもこのタイミング。学生の頃と変わらな

い雰囲気であらゆるしゃべり、笑い合える空間は、本当に居心地の良いものです。

花火を見に行つた先では、複数の家族が大きな一枚のシートの上で食べ物や飲み物を囲みながら観覧している姿がありました。親戚なのか、あるいは近所の仲の良い家族同士なのかは分かりませんが、とてもにぎやかな席。しかもそういった団体は1カ所だけではなく、花火が人と人とを結び架け橋になっているようです。

夏という季節がくれる人とのふれあいが、ルーティン化してしまいがちな日々を光を当てます。独りで抱え込むようなことがあっても、自分と誰かは必ずつながっているのだと、そう認識させられます。日々の福祉の実践の中にも、そんなつながり感を意識できるような取り組みを増やしていけたら、すてきな夏と思いつつ。

みなさんはどのような夏を過ごされましたか。

(実央)

湯沢町で関東ブロック都市区町村社協職員研修協議会

「想像力と創造力」生かした地域福祉を考える

第53回関東ブロック都市区町村社協職員合同研究協議会が7月14、15の両日、湯沢町のNASPAニューオータニで「想像力と創造力」をメインテーマに開催されました。県内で同協議会が開かれるのは12年ぶりです。東京都をはじめ茨城、神奈川、群馬、埼玉、静岡、千葉、栃木、長野、山梨、新潟の各県社会福祉協議会職員など270人余りが参加しました。



江口歩氏による基調講演

1日目は、①地域をつくる②人をつくる③ふくしの担い手の姿④暮らしをつくる⑤一人ひとりの暮らしを支えるために⑥役割をつくる⑦プロデューサーとして⑧繋がりをつくる⑨輝くふくしのネットワークの5つの分科会ごとに突っ込んだ論議。社協の目指す道は、やるべきことは何か、などを考えました。

分科会①では、地域の社会資源を活用した福祉の在り方を探りました。埼玉県鶴ヶ島市社協主査の牧野郁子さんと千葉県富津市社協統括の鈴木著代さんが、住民と社協の協働などについて事例報告。この後、グループに分かれて意見を出し合い、地域の人たち自らが考え行動することを社協が後押しする重要性を共有して



「人をつくる」をテーマにした第2分科会

いました。

分科会に先立ち、新潟お笑い集団代表の江口歩さんが「ラブ・ラブ・ライフ」と題した基調講演を行いました。江口さんは自身の生活や保護司として受刑者と接し、「こわれ者の祭典」に関わってきた経験から、「受刑者の問題も発達障害も教育も、みんな福祉の問題。万引きやいじめの根底には寂しさによるゆがみがあり、子育ての時から優し

さのシャワーを掛ける必要がある」と強調、「世の中は偏見の塊であり、本質を見ることが大切だ」と訴えました。

2日目には、魚沼新潟物産代表取締役社長の中俣善也さんによる記念講演「地域とともに」魚沼の食と文

化を伝える」が行われました。



新潟の地酒や食事を楽しみながら楽しく意見交換

新潟市で関東社会就労センター協議会

よりよい支援の在り方探る



2日目のシンポジウム

援のために」をメインテーマに開催されました。東京都をはじめ茨城、栃木、群馬、神奈川、埼玉、静岡、千葉、長野、山梨、新潟の各県社会就労センター協議会会員、障害者施設、障害福祉サービス事業所の職員など200人余りが参加しました。

関東社会就労センター協議会in新潟が7月21、22の両日、新潟市のANAクラウンプラザホテルで「働く・くらす」のよりよい支

1日目は、埼玉県立大学保健医療福祉学科教授、朝日雅也氏による、「働く」と「暮らす」を包括する就労支援をめざして「障害者権利条約の理念実現のため

に―と題した記念講演と分科会が行われました。

第1分科会では、「災害対応」をテーマに参加者が自施設の災害対応マニュアルを持ち寄り、備えや生命、暮らしをいかにして守るかを一緒に考え、第2分科会では、「農福連携事業を活用した工賃向上」をテーマに農業と障害福祉の連携により双方の活性化を目指す取り組みについて探りました。

第3分科会では、「私たちの『働きがい・生きがい』のために支援者にもとめるものは？」と題して、3人の当事者が事例発表、その実現のために支援者ができることは何かを考えました。

2日目は、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉課課長補佐の鈴木良尚氏が、3年後の見直し内容をはじめとした障害福祉施策の動向について、障害者就労支援に係る事項を中心に説明。大会最後に「工賃向上、



分科会では熱心な議論が交わされた

民福連携」をテーマにシンポジウムが行われました。

シンポジウムでは、好事例を他人事と捉えず、学びと捉え、業務への生かし方を考え、民間企業とどう連携していくか、winwinの関係がどう構築できるかを探りました。エコーンファミリー・鈴木友里枝さんの発表の最後に参加者へ向けた印象的な言葉がありました。「機会が無いからできないのではなく、つながる機会を探すことができます。世界には60億人も人がいるから、声に出せば、行動すれば、きっと何かにつながると思います」。

ホームヘルパー 支援基金 支援・育成団体を募集

農中信託銀行は、公益信託J Aバンク新潟県信連創立50周年記念・ホームヘルパー支援基金の助成先を募集しています。高齢者に対する在宅福祉サービスの主な担い手であるホームヘルパーを支援・育成する活動に対し助成を行うもので、社会福祉法人、公益法人と

3年以上活動し概ね10人以上で構成するボランティア

団体を対象にしています。助成対象は、①ホームヘルパーの活動および当該活動を支援する設備の整備など

②ホームヘルパーの資質向上のための各種事業の開催など③その他目的を達成するために必要な事業です。

金額は、対象費用全体の70%以内で、原則として①については75万円、②については25万円が1件当たり

の限度額となります。希望者は、所定の助成金交付申請書に必要書類を添付して、11月30日(水)までに、〒101-0047

東京都千代田区内神田1-12 農中信託銀行営業推進部「J Aバンク新潟県信連創立50周年記念・ホームヘルパー支援基金」係へ郵送。詳しくは、ホームページ <http://www.nochutb.co.jp/> で確認してください。

9月は新潟県自殺対策推進月間 守ろう たった一つの命

新潟県は、9月1日から30日までを「自殺対策推進月間」と定め、「たった一人のあなたです たった一つの命です」をキャッチフレーズに自殺予防啓発活動を集中的に展開し、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」を目指します。

県ホームページのほか、新聞、テレビ、ラジオなど多様

なメディアを活用し、自殺予防の呼びかけや相談窓口の周知を行います。平成26年と

27年の自殺の発生状況を比較し、増加地域を「働き盛り世代対策強化地域」、「高齢者層対策強化地域」と位置づけ

て啓発強化に取り組みます。また、市町村や関係機関・団体、民間団体によるメンタルヘルスに関する講演会や「命の門番」といわれるゲートキーパー養成の研修会などを行います。

本県の平成27年の自殺者

新潟県こころの

相談ダイヤル

011-941-0125

数は503人、自殺死亡率は21・9(全国平均は18・4)で全国ワースト上位に位置するなど、全国水準よりも常に高い値で推移しています。このため、「自殺予防週間」(9月10〜16日)を9月の1カ月間に拡大し、新潟県自殺対策強化月間として取り組んでいます。

平成28年度共同募金公告

社会福祉法第119条に基づき新潟県における平成28年度共同募金運動計画について、次のとおり公告します。

平成28年9月 社会福祉法人 新潟県共同募金会 会長 小田敏三

- 運動の期間
 - 一般募金 平成28年10月1日から平成28年12月31日まで
 - NHK歳末たすけあい募金 平成28年12月1日から平成28年12月25日まで
 - あったか雪募金 平成29年1月1日から平成29年3月31日まで
- 募金の目標額 473,345,000円
 - 一般募金 383,858,000円
 - 歳末たすけあい募金 79,487,000円
 - NHK歳末たすけあい募金 8,000,000円
 - あったか雪募金 2,000,000円
- 配分の範囲

新潟県内において、社会福祉事業、更生保護事業その他の社会福祉を目的とする事業を営業者（国及び地方公共団体を除く）とする。
- 配分の計画及び方法

配分要望のあった次に掲げる事業に対し、募金実績の範囲内において配分を行う。

(1) 一般募金の配分

① 広域配分計画

(単位：円)

● 県広域社会福祉団体

配分先	配分予定額	使途内容
新潟県社会福祉協議会	5,398,000	成年後見制度普及促進事業等
新潟県母子寡婦福祉連合会	400,000	関東地区母子寡婦福祉研修大会
新潟県手をつなぐ育成会	106,000	研修事業
新潟県保育連盟	300,000	保育所問題研究委員会
新潟県身体障害者団体連合会	640,000	障害者福祉大会他
新潟県老人クラブ連合会	200,000	老人クラブPRリーフレットの作成
新潟県肢体不自由児者父母の会連合会	185,000	社会参加体験研修会他
新潟県肢体不自由児協会	200,000	ふれあい作品展
新潟県保護司会連合会	300,000	保護司会研修事業他
新潟県民生委員児童委員協議会	861,000	児童委員活動研修会他
新潟県ホームヘルパー協議会	300,000	現任ホームヘルパー研修
新潟県災害ボランティア調整会議	300,000	災害支援コーディネーター養成研修
新潟県精神障害者家族会連合会	300,000	精神保健福祉フォーラム
新潟いのちの電話	620,000	電話相談員養成の研修事業他
新潟県里親会	300,000	里親大会研修事業他
新潟市母子寡婦福祉連合会	144,000	母子連きらきらフェスタ2017

● 県広域社会福祉施設整備

配分先	配分予定額	使途内容
介護予防・生活支援サービス事業所ゆきつばき	2,000,000	総合施設ゆきつばき改修工事
認知症対応型介護施設グループホームはまの里	891,000	空調機の整備
就労継続支援B型 角田の里	2,000,000	空調調和設備改修工事
特別養護老人ホーム いずみ苑	566,000	利用者用介護ベッドの整備
特別養護老人ホーム こがし園	2,000,000	電動ベッドの整備
生活介護・就労継続B型 すてっぴ	310,000	自主製成品在庫保管倉庫の整備
就労継続支援B型 かしわハズ	1,296,000	ドウコンディショナーの整備
金井デイサービスセンターしゃくなげの里	2,000,000	特殊浴槽の整備
特別養護老人ホーム 大浦の里	2,000,000	ナースコールの整備
放課後等デイサービスこゝろいん	2,000,000	送迎車両の整備
就労継続支援B型・生活介護すずまり	2,000,000	送迎車両の整備
短期入所生活介護ショートステイ岡南	1,062,000	送迎車両の整備
生活介護 守門の里	1,858,000	送迎車両の整備
特別養護老人ホーム 和久楽	2,000,000	送迎車両の整備
就労継続支援B型 きずなの会	998,000	送迎車両の整備
就労継続支援B型 ふれあいうんじ	2,000,000	送迎車両の整備
生活介護・就労継続支援B型コスモス活動所	2,000,000	送迎車両の整備
老人デイサービスセンターゆのさと園	2,000,000	送迎車両の整備
関川村デイサービスセンター	2,000,000	送迎車両の整備

● 地域活動支援センター等障害者小規模作業所支援事業

配分先	配分予定額	使途内容
地域活動支援センターⅢ型あさひ共同作業所	150,000	自主製成品の材料購入
地域活動支援センター焙煎コーヒー温	150,000	自主製成品の材料購入
地域活動支援センターなごみ	100,000	交流事業
地域活動支援センター和工房	150,000	研修事業
地域活動支援センターたんぼぼ	150,000	交流事業
地域活動支援センターほっとスペース	150,000	自主製成品の材料購入
地域活動支援センタービューアはーと	150,000	自主製成品の材料購入
地域活動支援センターぼむハウス	150,000	研修・交流事業
地域活動支援センターUNEHAUS	150,000	福祉市民体験農園事業
地域活動支援センター三交電子	150,000	研修・交流事業
地域活動支援センター作業所あゆみ	150,000	地域交流事業
地域活動支援センター新発田	150,000	自主製成品の材料購入
はとの会地域活動支援センター	150,000	研修・交流事業
地域活動支援センターフリースペースみのり	150,000	交流事業、講演会事業
地域活動支援センターしば草	220,000	研修事業・洗濯機購入事業
新発田市手をつなぐ育成会ハローハロー	150,000	地域との交流・レクリエーション事業
ぬくもり工房	150,000	研修事業
ひまわりの家自立訓練所	150,000	社会体験活動事業
サポートハウスすまいる分水	150,000	社会参加事業
隣保館福祉作業所	300,000	施設運営費
ドリームハウス	150,000	研修事業
地域活動支援センターさくら工房	150,000	各種年間事業
地域活動支援センター結屋	442,000	全館LED照明器具への交換事業
NPO法人 友の家	150,000	作業用備品の整備
地域活動支援センターいしづえ	1,000,000	運搬送迎車両

● 市町村社会福祉協議会地域活動用車両

配分先	配分予定額	使途内容
長岡市社会福祉協議会 栃尾支所	2,000,000	車両の整備
上越市社会福祉協議会	1,170,000	車両の整備
上越市社会福祉協議会 中郷支所	700,000	車両の整備
十日町市社会福祉協議会 松代支所	700,000	車両の整備
佐渡市社会福祉協議会	1,380,000	車両の整備
魚沼市社会福祉協議会	1,445,000	車両の整備

● ボランティア団体等活動支援事業

配分先	配分予定額	使途内容
メルヘンの窓	38,000	紙芝居の購入等
いろはにほん語教室	74,000	プロジェクターの整備
NPO法人 こどもセンターぼると	176,000	ボランティア養成講座開催費
ボランティアサークルふおはあと	200,000	ワイヤレスアンプの整備等
音声訳 つわぶき会	268,000	音声訳用ノートパソコン等の整備
NPOかも小町	256,000	コピー機の整備
骨髄バンク命のアサガオにいがた	130,000	リーフレットの作成
NPO法人 ここスタ	300,000	シンポジウムの開催

● 地域活動支援事業

配分先	配分予定額	使途内容
亀田ささえあいの会	185,000	厨房の入り口へ網戸の設置等
長岡市社会福祉協議会	100,000	障害者カフェの資材整備
太田区社会福祉協議会	289,000	ふれあい食事サービス事業の備品整備
西本成寺有志会	262,000	地域交流会用白枠の整備
若者を応援する地域ネットワークの会ぶーにーば	313,000	就労支援用パソコンの整備

● 児童養護施設等就労支援助成事業

配分先	配分予定額	使途内容
児童養護施設等	3,000,000	運転免許取得費

● 障害者支援施設送迎用車両

配分先	配分予定額	使途内容
障害者支援施設	5,000,000	送迎車両の整備

● 地域福祉活動拠点整備支援事業

配分先	配分予定額	使途内容
地域団体	4,000,000	居場所づくり事業

● 安心安全地域の支え合い支援事業

配分先	配分予定額	使途内容
地域団体	3,000,000	見守り活動等事業費等

● その他

配分先	配分予定額	使途内容
災害等準備金積立金	15,000,000	災害時の救援活動のための積立金
緊急災害配分金	2,000,000	火災・水害の見舞金
市町村共同募金委員会活動費	21,950,000	運動推進のための事業費
中央共同募金会分担金	2,435,000	中央共同募金会への分担金
共同募金運動推進費	43,000,000	運動推進のための事業費

② 地域配分事業

配分先	配分予定額	使途内容
社会福祉協議会、地域団体	227,890,000	地域での事業費

(2) 歳末たすけあい募金

配分先	配分予定額	使途内容
社会福祉協議会、地域団体	79,487,000	歳末時期の事業費等

(3) NHK歳末たすけあい募金

配分先	配分予定額	使途内容
福祉施設への機器整備事業・難病支援他	8,000,000	車両整備費、活動費

(4) あったか雪募金

配分先	配分予定額	使途内容
豪雪地のボランティア支援	2,000,000	ボランティアの活動費等

福祉の店 味わい散歩

菓子工房 やつき・やき

NPO法人青りんごの会

(新潟市北区白新町1-9-7)

◇ 9時30分～15時30分

◇ 土・日・祝日休み

◇ TEL 025 (386) 55000



自慢のスコーン、中はしっとり

看板商品はスコーン。青りんごの会が発足直後に携わった、旧豊栄市図書館併設の喫茶店です。お菓子に、と考えたことが出発点。今年初めて売り出したバナナをはじめ、イチゴやブルーベリーから定番のチョコとカボチャ、9月からはサツ



マイモが加わる。季節に合わせて製造する種類を少しずつ変えている。包装を開けるとフルーツの甘い香りが広がる。「おいしさは幸せの味」が合い言葉で、日々10人ほどの利用者が包装までの作業に当たっている。大量生産はできないが、

ラム酒に漬けたドライフルーツなどを使い丁寧に練り上げる。外はサクサク、中はしっとりとした味わいが好評

だ。プレーンは2つに割って生クリームを挟んで食べてもおいしい。

さらに、予約制だが、平飼いの精卵をはじめ牛乳、バターなど、こだわりの材料を使った「ロイヤルスコーン」も販売している。1個220円(税別)からだ。東京のデパートで販売したところ大好評だったという。

このほか、クッキーやバターケーキの製造・販売もしている。食物アレルギーに配慮し、卵や牛乳を使わずにココナッツミルクを使ったクッキーもあり、各種イベントの時は、パウンドケーキも登場する。新潟県庁や新潟市民病院の売店でも購入できる。

福祉NEWS

2016年7月11日～8月10日

■独居高齢者600万人超 「経済的に苦しい」58% 厚生労働省調査

1人で暮らす65歳以上の高齢者は2015年に約624万人(推計)で、初めて600万人を超えたことが7月12日、厚生労働省の国民生活基礎調査で分かった。夫婦などを加えた高齢者世帯は、全体の25.2%だった。このうち経済的に「苦しい」と感じているのは58.0%。公的年金や恩給を受給している世帯の55.0%は他に所得がなく、老後の厳しい生活状況が浮かんた。

■災害時の連携検討で合意 北関東磐越5県知事会議

本県と群馬、福島、茨城、栃木の各県知事が広域的な振興策を協議する「北関東磐越5県知事会議」が7月20日、福島県いわき市で開かれた。各地の大規模災害発生を受け、災害時の福祉専門職の派遣体制などの検討や、広域的な支援方法を協議していくことで合意した。

■介護保険施設の食費・部屋代 一部負担増

特別養護老人ホーム(特養)など介護保険の施設に入所している低所得者の一部で、8月1日から食費と部屋代の負担が増える。対象は①特養②老人保健施設③介護型療養病床のいずれかに入っていて、年額80万円を超える遺族年金、障害者年金の受給者ら。最大で月約3万3千円の値上がりのケースもある。厚生労働省は「老齢年金の受給者との公平性を確保するため」として、年約130億円の給付削減を見込んでいる。

■県弁護士会と法テラス新潟 「支援者支援」制度を創設

県弁護士会と日本司法支援センター新潟地方事務所(法テラス新潟)は1日、法的な問題を抱える人の支援者を対象とした法律相談制「弁護士・支援者ホットライン」を創設した。直接弁護士への相談が困難な人のトラブル解

決に向け、「支援者支援」に取り組む制度だ。行政や医療福祉関係の職員らが、判断能力が低下した高齢者や障害者、生活困窮者らと接する中で金銭や人権にまつわる法的トラブルを抱えていた場合、本人の代わりに無料で弁護士に相談することができる。◎「弁護士・支援者ホットライン」電話窓口 平日午前9時～午後5時。法テラス新潟内、050(3383)5420

■特養設置要件都市部で緩和

「介護離職ゼロ」の実現に向けて、政府は特別養護老人ホームが不足している都市部で設置要件を緩和した。対象は自治体が「今後人口増が見込まれ、特養の土地取得が困難」と判断した地域。一定の条件を満たせば民間から借りた不動産にも設置できるようにする。

昨年11月の1億総活躍社会実現への「緊急対策」を受けた対応で、厚生労働省が7月27日付で各自治体に通知した。施設増により入所の待機者を減らし、介護離職を減らす狙いだ。

社福法人の公益活動

その5

◆法人情報◆

本部所在地
上越市大字上真砂219
電話 025-520-2121
FAX 025-520-2122
<http://www.joetsu-rou.jp/>

エビデンス蓄積し一層の内容充実図る

社会福祉法人上越老人福祉協会

最近の取り組みを紹介する前にこれまでの活動について簡単に記したい。

上越老人福祉協会(以下、法人という)は、昭和48年11月20日に創設された。翌年開設された特別養護老人ホームいなほ園を軸に「リハビリテーション」と「認知症」をサービズ活動の源としてきた。県より「在宅老人機能回復訓練事業」や「機能回復訓練研修事業」の研修施設に指定され取り組んできたが、介護保険制度の普及と共に平成13年で終了となった。

平成9年、老人保健施設高田の郷の開設に併せ、今後益々深刻化する認知症について、情報の収集と研究、研究に基づく啓発活動、地域住民からの相談事業に取り組むこととなった。平成16年からは専門員(認知症介護の経験豊かな保健師)を配置した。その後、認知症の問題が社会化し、医療分野では名称を新たに認知症疾患医療センターが関連病院の高田西城病院内に開設され、介護分野では地域包括支援センターが整備された。このような状況下、認知症に係る社会的課題を一つの社会福祉法人が単独で行う先駆的役割は成し終えたと判断し、その機能を

認知症疾患医療センターに平成25年8月末をもって移行した。その他、高齢者事業従事者のスキルアップやサービズの質的向上に向けた各種のセミナーを開催し貢献してきた。

上越市は、県内でも早くに介護予防支援事業に取り組んでいる。今年度は、一般介護予防事業として、各地域自治区(28区)に通いの場である「すこやかサロン」を設け、生活支援コーディネーターを配置し高齢者の閉じこもり防止や地域住民との交流、生きがいづくりなどを目的とした事業を行っている。

高齢者以外にも介護者支援を目的とした「介護者家族の集い」や認知症の人と家族支援を目的にした「認知症カフェ」など、在宅で介護している人を支援する内容となっている。また、介護予防メニューも「口腔ケア」「転倒予防」「認知症予防」など、工夫が凝らされている。これらに法人専門職(理学療法士、管理栄養士など)を派遣し、内容が充実したと参加者の好評を得ている。効果測定には、

今後、社会福祉法人が取り組む「地域における公益的な活動」について、地域の福祉課題を把握した上で、広域連携も視野に入れた活動の検討を推進していくかなければならない。(法人事務局長 井澤俊彦)



すこやかサロン「諏訪」 転倒防止教室



認知症予防教室

福祉の就職総合フェア2016 先輩の助言に思い熱く

新潟市中央区の新潟ユニ
ゾンプラザで8月10日、福
祉の就職総合フェア
2016」が福祉の職場を
希望する学生を対象に開催
されました。人材確保が緊
急な課題となる中、新潟県
と新潟県社会福祉協議会、
ハローワーク新潟、新潟県
ナースセンターが実施しま
した。

今年度は2部形式で実施
し、第1部は「先輩の体験
発表」。ワークセンターふ
じみ支援員の堀井夢摘さん
と、くびきの里ショートス
テイ介護員の八木絢子さん
の2人がアドバイスをしま



先輩2人が自身の体験を踏まえ、
温かい助言

た。就職活動のアドバイス
としては、学校の就職支援
部門の利用、施設などの見
学が重要であり、早めに行
動をすることとしました。
また、仕事のやりがいとし
て、「人との出会い」や「あ
りがとう」「がんばっている
ね」の言葉であると話し
ました。

来場者からは、「実際に
働いている先輩から、具体
的な話を聞くことができ
とても参考になった」と感
想がありました。

第2部では県内の介護施
設、障害施設、児童施設を
運営する71法人がブースを
設け、それぞれ工夫を凝ら
し施設の魅力を伝えていま
した。仕事内容や、勤務体
制などの説明を分かりやす
く説明し、来場者も熱心に
聞いていました。来場者か
らは「直接担当者の方から
話しが聞けて、とてもよ



就職希望者は仕事の内容など施設側
の話に熱心に聞き入っていた

かった」「もつと時間がほ
しかった」との声が出てい
ました。

人材確保に悩む法人が多
い半面、福祉職を目指す新
卒者の減少や、他業種に就
職を希望する傾向があり、
来場者は昨年度の3分の1
程度の49人となりました。
今後一層、福祉施設・
事業所への求人開拓、就職
希望者の人材発掘を行い、
求人事業所及び求職者の意
向に対応した支援の強化を
図っていききたいと考えてい
ます。

みんなで築こう 安心と活力ある健康長寿社会 15日から「老人の日」キャンペーン

内閣府や全国社会福祉協議会などが呼びかける「老
人の日・老人週間」キャンペーン（15～21日）が、
今年も全国で展開されます。

世界でも有数の長寿国・日本。昨年10月には「一億
総活躍社会の実現」を目指し、健康寿命の延伸を
図るとともに、一人ひとりが個性と多様性を尊重され、
能力を発揮でき、生きがいを感じることができる社
会づくりが進められています。

こうした状況を踏まえ、安心して暮らせるまちづ
くり、高齢者の社会参加・ボランティア活動の促進
一など6つの目標を掲げてキャンペーン活動するよ
う呼びかけています。



福祉の現場

嵐山 淳子さん

(新潟みずほ福祉会「みっと」 サービス提供責任者)

No.14



「利用者の社会参加の手伝いがしたい。その方の世界が広がり、生活全体が潤うような行き届いたサービスができたなら良いな」。日々、緊張感の一方で新たな出会いや発見があり、新鮮な気持ちで仕事に励んでいる。居宅介護、同行支援、移動支援を行う事業所「みっと」が新潟みずほ福祉会(新潟市西区)の第2みずほ園内に設立されて1年半近く。申請書類作成など立ち上げから携わり、事業所名の名付け親でもある。「一緒にとか、共にといった意味の名前にしたかった」。そんな思いとぴったりの「〜と一緒に」という意味のドイツ語「mit」を見つけた提案しよう。「キャラクターミットのようにニーズをキャッチしたい。困っている人のニーズをくみ取りたい」。

勤続16年のベテラン。嵐山さんを含め3人の職員全員が介護

社会参加の手助け。日々やりがいを感じる

福祉士で、質の高いサービスを目指している。移動支援には80人ほどの障がい児・者が登録しており、要望に応じて、視覚障がい者のための同行支援を昨年11月から始めた。3人で必要な研修を受けてのスタート。買い物から受診や余暇活動の付き添いなど、事業所の車を使い安心して行動できるように努め、活動の広がりを感謝されている。

「同行支援では、情報を的確に伝えることが重要だが、方角や位置関係など難しいことも多い。利用者の方に教えられることもある。安全の確保のために段差や障害物には一番気を付けている」

小学校のころからの思いである福祉の道を目指し、秋田県から新潟市内の専門学校に進学、新潟みずほ福祉会へ。当初、新職場への異動に「びっくりしたが光栄にも感じた」と振り返る。今までの入所施設での業務とは違ったやりがいを感じている。

「これからも、地域に親しみ、利用者の視点に立った質の高い福祉サービスを提供するという法人理念の実践に努めたい」

新潟ユニゾンプラザ ライブラリー NEWS



事例はアニメで制作し、悲劇の痛々しさやショックを和らげています。



「アニメで見る高齢者介護の自殺・心中予防」
介護にまつわる高齢者の自殺や心中を防ぐために
社会福祉の立場からアプローチ

- ◆監修：福山清蔵(立教大 名誉教授)
- ◆企画・制作：三木松政之 湯澤直美 服部万里子 和秀俊 庄子芳宏 木内理恵 (立教大学コミュニティ福祉研究所)
- ◆制作協力：丸善出版株式会社
- DVD全1巻 25分

このDVDは立教大学コミュニティ福祉研究所「うつ病者の社会的支援」及び「自殺予防」に関するソーシャルモデル研究・開発(文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成22年〜26年度))の研究成果を基に制作されました。

わが国では「心中」の統計が存在しません。そこで研究テーマとして、「高齢夫婦間の老老介護生活で生じる自殺と心中の予防」を取り上げ、この研究成果を広く社会の人々に関心をもっていただくために制作したものです。

「意見や感想お寄せください」

- ◆「福祉にいがた」について、ご意見、ご感想、知りたいテーマなどございましたら左記までお寄せください。
- ◆TEL 950-85575 新潟市中央区上所2-1-2
- ◆新潟ユニゾンプラザ3階 新潟県社会福祉協議会企画広報課
- ◆ファクス 025-281-5528
- ◆Eメール oasisu@fukushinigaata.or.jp

問い合わせ 新潟県社会福祉協議会 新潟ユニゾンプラザ図書情報ルーム ☎025-281-5514

一紹介した資料のほか、福祉や女性に関する図書やDVDの貸出をしています

この機関誌は、赤い羽根共同募金の助成を受け発行しています。



発行所/社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5520
発行人/関谷 政友
定 価/5円(会員の購読料は会費に含む)

福祉にいがた
平成28年9月1日発行(毎月1日発行)
昭和27年9月16日 第三種郵便物認可
印刷/島津印刷㈱